

## 神の命を運んでくれる「風」

\* 聖霊降臨の祝日を迎えて (5月19日)



いま つくえ まえ すわ すうねんまえこうけい  
 今、机の前に座り、ふと20数年前光景  
 が目に浮かびました。朝の霧が晴れ、青空  
 のもと、エメラルド色の海でさざ波が小舟  
 を躍らせ、若松島のクリスタン洞窟を見つ  
 めていた時の記憶が懐かしくよみがえり  
 ます。百数十年前の弾圧時代に主キリス  
 トへの信仰の証しとして大勢の信者は危  
 険に身をさらし、命をかけて共に信仰を  
 わかち合うため小舟を漕ぎその洞窟に集  
 い、そこで神への賛美を響かせていました。  
 —その辺りに吹いていた「風」は正に「神  
 の命」を運んでいた「風」です。

▲「風」。ヘブライ語の「ル・アハ」は  
 “風”（動いている空気）を意味している  
 のですが、聖書の中でその言葉は“神の  
 息”“神の息吹”、命をもたらす神の「霊」  
 をも言い表しています。（創世記1、2・2、  
 7）風と同じように肉眼で神を“見る”こ  
 とができませんがその存在に気づくこと  
 ができます。  
 —復活して生きて現れたイエスに出会い、  
 イエスから与えられた使命を思い巡らし

ていた弟子たちは、神の「霊」に満たされ  
 て（使徒言行録2、1～11・ヨハネによる  
 福音書20、21～23）教会が誕生しました。  
 それはおよそ2千年程前のことです。当時  
 の弟子たちは神の「ル・アハ」、「神の命の  
 息吹き」に満たされたことを確信したおかげ  
 で、人類の歴史において新しい「風」  
 が吹き始め、イエスの内に「神が人となら  
 れた」という《よい知らせ》「福音」がロ  
 ーマ帝国の街道に沿って拡がって行きました。

＝ところが、21世紀の我が国ではその勢  
 いが弱まり、教会は疲れたかのように息  
 切れをし、足踏みし、衰退さえしているか  
 のように見えると言ったら過言でしょう  
 か。

▲5月19日教会は聖霊降臨を祝います。  
 しかし、その祝いを過去の記念としてのみ  
 行おうとすれば、その意味を見逃してし  
 まいかねません。—今日も聖霊降臨なので  
 す。しかしそのことをもっと自覚するため  
 に「神の風」「神の命の息吹き」をたっぷ  
 り浴びるように、心の扉と窓を開けて外  
 へ出て、そこで働いている神の「霊」に  
 協力するように心がけることは必要な  
 ことではないでしょうか。  
 =崩れ落ちる壁は大きな音をたてて倒れ  
 ますが、春先に土から芽を出す草は音を立  
 てて生えるではありません。—教会に  
 にとって「今日」という日も聖霊降臨の日な  
 のです。

●司祭になろうとする若者が少なく、信徒も高齢化していると盛んに嘆いている今日ですが、そうだからと言って教会はつぶれたり消えたりすると決まったわけではありません。その深刻な問題に正面から取り組み、よく吟味した上で、勇気をもって忠実にイエスに従って脱皮するように努力すれば、希望の内に進んで行くことができます。しかし、そのために頑として居座る姿勢を改め、自分の信じ方、信仰の有り方を見直す必要があるのかもしれない。

イザヤ預言書の中に重みのある次の言葉があります。「見よ、新しいことをわたしは(神)行う。今やそれは芽生えている。

あなたたちはそれを悟らないのか」と。(イザヤ書 43、19) また、マタイによる福音書の終わりにあるイエスの最後の言葉を時々私たちは忘れてはいないでしょうか。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」と。(マタイ 28、20) しかし、私たちはどこまでその約束を信じ、神の霊、イエスの霊の働きに気づき、その働きに協力しているのでしょうか。

一教会の中で、「聖霊の働き」という言葉をよく耳にするのですが、私たち一人ひとりがその言葉をどのように理解しているのでしょうか。場合によって、それ以前に「聖霊」のことを意識し、その「働き」に関心を持っているのでしょうか。しかし、「お客様」として教会と関わるだけで

「神の風」に吹かれて生きることが可能なことでしょうか。



▲聖霊の存在と働きに気づき、聖霊に「動かされる」ためにまず、神の言葉に耳を傾けることが必要です。「わたしはあなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊があなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」と。(ヨハネによる福音書 14、25～26)

さらに、「主の日」の感謝の祭儀に参加し、秘跡によって養われ力づけられて、積極的に教会共同体の生活に関わることによって初めて、教会の中でも生活の場でも「聖霊の働き」に気づき「聖霊の働き」に協力することができると思います。それぞれの可能性に気づいて。私たちの毎日は「聖霊降臨」の日となることを祈りたいものです。